

評価領域 2. 教育の内容

2-1. 教育課程について

2-1-① 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。平成22年度に学科改組等を行った場合は、平成21年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

【2-1-1表】 □□学科（○○○専攻・コース）教育課程

【2-1-1表】は別表として巻末に記載。

2-1-② 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

科目編成は教養教育の取組み、科によっては専門教育の内容とその授業形態とのバランス、必修と選択とのバランス、専任教員職員の配置等をふまえて設置されている。平成22年度入学生より、生活科学科より生活ナビゲーション学科、生活科学専攻をライフデザイン専攻に名称変更をし、教育課程を見直し、学生にとって魅力あるカリキュラムの内容となった。

[保育科]

教養教育の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の基となる「仏教Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」と「聖徳太子概説」を設置し、仏教精神の修得を目指している。 ・「生命の科学」「環境の科学」「物理の世界」等、最新の理化学、医学、物理工学等の教養科目を設置し、幅広い知識の修得をめざす科目配置とした。 ・幼稚園教諭と保育士に必要な科目を免許・資格取得必修として「英語Ⅰ」「情報処理演習Ⅰ・Ⅱいずれか」「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」を履修させている。
専門教育の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭養成と保育士養成のカリキュラムを基として構成している。 ・2年間を通して設置している「保育実践演習」は7人の担当教育職員によりテーマ別に、授業形態も多様となっている。理論と実践が一体となっている「保育実践演習」をコアとし、学修テーマを Semesterごとに掲げ、体系化・構造化したカリキュラムの内容となっている。
授業形態のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格および幼稚園教諭養成、専門的知識の修得ならびに実践力、技能の向上のために、実習演習科目がバランスよく設置されている。
必修・選択のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許と資格取得を前提としているため、必修科目の割合が非常に多い。
専任教員職員の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学の設置基準（文部科学省）および厚生労働省の専任教員数の条件をみだし配置している。

[生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻 (平成 22 年度入学生)]

[生活科学科生活科学専攻 (平成 21 年度入学生)]

教養教育の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の基となる「仏教Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」と「聖徳太子概説」を設置し、仏教精神の修得を目指している。 ・「生命の科学」「環境の科学」「物理の世界」等、最新の理化学、医学、物理工学等の教養科目を設置し、幅広い知識の修得をめざす科目配置とした。 ・体系化したキャリア支援の資格科目を時間割上履修できるように配慮している。
専門教育の内容	<p>[ライフデザイン専攻 (平成 22 年度入学生)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度のカリキュラムにくらべ、生活全般からビジネスにいたる分野の多彩な科目を設置した。「ビジネス」「デザイン」「フード」「ファッション」「インテリア」「観光・カルチャー」「健康・ビューティー」「情報」の 8 つのフィールドに分類し、さらに 23 のユニットに細分した。 ・キャリアに対応した実践的な科目を設置した。 ・卒業に必要な専門教育科目の単位数を個人の目標や希望に応じて選択でき、卒業後のライフプランとキャリアデザインを描くように設置。
授業形態のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・演習・実習科目の割合を多くした。(実践力強化)
必修・選択のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度入学生については、8 つのフィールドと 23 のユニットを選択できるように必修を減らし、選択を増やした。
専任教育職員の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な分野の中で、担当できる専任教育職員を適切に配置した。 ・短期大学の設置基準 (文部科学省) を満たす専任教育職員を配置している。

[生活ナビゲーション学科生活福祉専攻 (平成 22 年度入学生)]

[生活科学科生活福祉専攻 (平成 21 年度入学生)]

教養教育の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の基となる「仏教Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」と「聖徳太子概説」を設置し、仏教精神の修得を目指している。 ・平成 21 年度入学生より、介護福祉士養成課程に「レクリエーション論」を必修とした。
専門教育の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・科名称は学年によって異なるが、専門教育の内容は昨年度と変更なく、厚生労働省の法改正に伴い「介護福祉士」養成の専門教育科目を設置している。
授業形態のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の養成に必要な指定された形態となっている。
必修・選択のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士取得を目的としているので、必修が大部分を占めている。
専任教育職員の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省の法改正に伴い、申請している専任教育職員を配置した。 ・短期大学の設置基準 (文部科学省) を満たす専任教育職員を配置している。

2-1-③ 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

【現状説明】

本学の教育課程を履修することで取得可能な免許・資格は、次の表のとおりである。

(取得できる免許および資格)

科・専攻名		免許の種類	資格等
保 育 科		幼稚園教諭二種免許状	保育士資格 社会福祉主事任用資格
生活ナビゲーション学科(※1)	ライフデザイン専攻(※2)		社会福祉主事任用資格 秘書士 情報処理士
	生活福祉専攻		介護福祉士資格 社会福祉主事任用資格 レクリエーション・インストラクター

(※1) 平成 22 年 4 月、生活科学科から名称変更

(※2) 平成 22 年 4 月、生活科学専攻から名称変更

【自己評価】

現状では、教育課程に直接関係しないがキャリアアップのための免許・資格等を取得する機会を設けるなど適切に運用されている。なお、生活ナビゲーション学科の改組により、ライフデザイン専攻においては、上述の免許・資格以外にも秘書検定やインテリア設計士、MOS 検定など受検が必要な 19 の資格・検定を「めざせる資格」とし、授業等を通じて取得の支援を行っている。

【改善向上策】

教育課程において、教育内容の充実と見直しを図り、社会のニーズに応えるべく免許・資格を検証し見極め、取得機会の新規設置・継続・廃止の検討が必要である。

2-1-④ 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等どのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

【現状説明】

履修要覧の科目編成表には、卒業に必要な必修単位数と選択単位数とを明記している。他に主な資格取得に必要な科目に印を入れて学生が判断できるようにしている。また、編成表以外の部分では、資格ごとに必要な科目を一覧にまとめた表を作成し、学生に案内を行っている。選択科目については、同分野の科目は同一曜日時限に配置せず、学修効果に配慮した。また、特に専門教育科目の選択科目については、クラスによって履修できる選択科目に差がないように配置した。生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻では、選択科目を分野ごとに分けてユニット名称を付し、時間割作成においては、まずユニット毎に開講曜日を決め、時間割等にも記載して学生の科目選択を容易にした。

【自己評価】

新学期開始当初には新入生を対象に科別、クラス別オリエンテーションを実施し、各科の教育職員が指導を行っている。週 1 コマ、科の全学生が集まる機会も新しく設けているため、より綿密な指導が可能である。

教務課窓口では随時学生からの履修相談を受付け、科目選択に助言を与えている。時間割上では全科共通の科目と、科特有の専門教育科目および共通教育科目でクラス指定をした科目の区分で欄を分け、さらに科・semester毎に記載している。生活ナビゲーション

学科ライフデザイン専攻ではユニット名も記載した。これにより学生が円滑に履修登録できた。

選択科目の配置は科目の分野を考慮したため、同分野であれば体系的な学修ができた。また、専門教育科目の選択科目は科の全学生が公平に選択できるため、学生の選択の幅を狭めることがなかった。特に生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻はユニット毎に開講曜日を決めて時間割を作成し、事前に学生に履修予定科目のアンケートを行ってクラス数の調整も行なったため、特に学生本位の時間割が提供できた。

【改善向上策】

履修登録が平成22年度冬学期よりWeb登録になり、学生はWeb画面に示される科目から選択するため間違った登録をしにくくなったが、それにより科目群を体系的に捉えて将来に向けて選択していくという本来の選択の仕方がおろそかにならないよう、そちらに比重を置いてガイダンスなどで指導してゆく。また、時間割上の配置については引き続き公平な選択を提供できるよう留意する。

2-1-⑤ 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

【現状説明】

平成22年度の卒業要件は、以下のとおりである。

本学に4セメスター、2年以上在学し、次の各号に定める単位を含め、62単位以上を修得しなければならない。

①基礎教育科目8単位 ②共通教育科目8単位 ③専門教育科目46単位

平成20年度に新カリキュラムを導入したことに伴い、卒業要件の見直しを実施し、前回の自己点検・評価における改善向上策であった「卒業要件の複雑さ」を解消するため、科目区分ごとに必要単位数を固定化し、混乱を回避する配慮を行なった。

卒業要件は、四天王寺大学短期大学部学則第15条に明記し、新入生に配布する学生便覧に掲載すると共に、年度当初に全学生に配布する「履修要覧」に「卒業するためには」の項目を設け、卒業要件を表形式で記載している。

【自己評価】

総修得単位数については「短期大学設置基準」第18条にも準拠しており適正である。

さらに、設置基準の主旨に沿い、特に「専門教育科目」に重点を置いている。また、学生への周知も条文のみならず、履修要覧に表形式で記載するなど、十分な工夫を加え、周知を図っている。

【改善向上策】

履修要覧の表記に加え、初年次のオリエンテーションで科・専攻別に教育職員より説明している。

2-1-⑥ 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下「学科長等」という）が記述して下さい。

【現状説明】

[保育科]

卒業必修単位は62単位であり、保育士資格の取得に要する単位数は72単位である。ただし、幼稚園教諭免許と保育士資格を併せて取得する場合には102単位が必要である。短期大学部2年間で幼稚園教諭および保育士の免許・資格を取得し卒業する場合、相当の単位取得が求められるのは致し方ない。学修意欲は旺盛だが、学修の方法に未熟な学生の能力を高めること、学力・能力の高い学生はさらに自主的な学修を勧めること等について重点的かつ効率的に指導を行うことで、今後、より一層質の高い保育者養成が求められる時代の動向や現場のニーズを勘案し、学生の負担軽減に努めた教育課程へと改編すべく系統的な見直し作業を行い、実施に移した。平成22年度は保育士養成課程の改定を含めた検証作業にかかる予定である。

[生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻]

学生が興味と将来の目標に合わせて、自由に授業を選択できるように履修方法を考えている。その特色は半年ごとに受講する授業を選択し、キャリアデザインを修正しながら、進路を絞っていくことができることである。その内容は、「ビジネス」「デザイン」「フード」「ファッション」「インテリア」「観光・カルチャー」「健康・ビューティ」「情報」の8つのフィールドを設け、更にその下に23のユニットを配し、これまでの授業科目をその中に組み込んだ。また、履修方法は、複数のフィールドから授業を選択し、キャリアデザインを修正しながら、進路を絞りこむ、学生にとって履修しやすい内容とした。(平成22年4月、生活科学科生活科学専攻から名称変更)

[生活科学科生活科学専攻]

平成20年度に併設大学とともに短期大学部においても組織的な教育課程の改編が実施され、その中で、短期大学に対する社会のニーズに対応する形で、社会に貢献する人材づくりというカリキュラムで応えてきた。そのニーズをよりの確にこたえる形で、学内諸機関で十分な話し合いの結果、平成22年度より教育課程を見直し、学生がその内容を十分に理解し、履修が容易なように改編している。(平成22年4月、生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻へ名称変更)

[生活ナビゲーション学科生活福祉専攻]

本専攻においては、その目的とする介護福祉士の国家資格取得に関して、教育課程が「介護福祉法施行規則」等の規定に基づくため、教育課程の改善には自ら制限があると言わざるを得ない。ただ、その制限内において改善に取り組んでいる。また、教育課程改善への提言は、本専攻の教育職員の会議により組織的に対応している。近時、学生の卒業後の進路に対するニーズが多様化していることから、介護福祉士資格の取得を阻害するものではないが、進路変更希望の学生には平成19年度入学生より、授業科目の変更はせず卒業要件のみを変更し、修学途中の進路変更配慮している。(平成22年4月、生活科学科生活福祉専攻から名称変更)

【自己評価】

各科ともに教育方針を検討し、改善する意欲が十分に認められる。

【改善向上策】

各科の教育職員の教育課程改善に対する努力は組織的に連携されているが、一部の学生の学修意欲の低下が目立つので、学修能力の差に配慮した授業構成など一層の改善を要する。

2-2. 授業内容・教育方法について

2-2-① シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

【現状説明】

シラバスはオリエンテーション時に全学生および全教育職員に配付し、履修計画の作成等に活用している。内容は、授業科目名、授業題目、概要、到達目標、授業計画、テキスト、参考文献、授業形態、成績評価の方法の9項目から構成されている。特に教職関連科目は平成22年度入学生より対象となる授業で、履修カルテの内容に基づき成績評価と連携させるため、予め決めた文言を表記するシステムを組み、到達目標の項目に反映させた。また、開講する全科目には固有の番号を付しており、検索時に活用しやすくしている。

【自己評価】

授業の概要や授業計画のみならず、到達目標および授業形態、成績評価の方法についての記載を全科目に義務付けており、科目選択時に必要な情報の提供に努めている。また、平成22年度より学生ポータルサイト「IBU.net」にてシラバス照会が稼働したことにより、即座にパソコンから必要な情報を得ることが可能となった。IBU.netでは、時間割表、成績、授業に関する掲示の閲覧、アンケート回答、課題の提出等が可能であり、さらにシラバス照会が加わることで、適宜シラバスを確認しながら効果的な学修を進めることが容易になり、学生サービス支援が順調に行えている。

【改善向上策】

平成22年度冬学期からはIBU.netをさらに発展させ、Web上で履修登録・確認・修正まで学生自身で実行できる予定となっており、その際には科目選択時にシラバスと連動させる機能を取り入れるため、さらにシラバスへのアクセスが簡便となる。また、平成22年度入学生より受講対象となる教職関連科目の履修カルテについては、数名の教育職員を配置しワーキンググループとして検討後、到達目標項目に一定の文言を表記して成績評価と連携するシステムを組んだので、今後は学生が記入する自己評価シートの管理、運用を検討していく。

2-2-② 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

【現状説明】

[保育科]

1年次冬学期の学外実習を契機に大部分の学生は、目的意識が鮮明となり、授業に意欲的に取り組むようになる。この期の成長・変容の実態を個々の学生に即し明確に把握し、

以後の養成へと繋げていくことが、科としての課題となる。そのためには本科内において学外実習をコアとした教育指導に取り組む必要があり、平成20年度入学生よりこの作業に着手し、保育実践演習を核とした新教育課程を編成、実施している。

[生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻]

充実した短期大学生活を送るため、専攻での学びについて、初年次教育に相当する「ライフデザイン概論」を1年次の夏学期に開講している。さらに、専任教育職員と兼任教育職員による学生情報共有により、それらの情報を把握することで、きめ細やかな対応ができると考える。(平成22年4月、生活科学科生活科学専攻から名称変更)

[生活科学科生活科学専攻]

平成20年度の教育課程改編により、社会のニーズに明確な形で対応していくという点に主眼をおき、資格取得を目指すこともその一つと考え、授業形態に演習を多く取り入れた。資格取得という具体的目標は学習意欲を高めることにつながる。また、演習という実践的・体験的な授業形態は、理論と並行して技術を身につけていくため履修態度の向上に繋がると考えられる。(平成22年4月、生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻へ名称変更)

[生活ナビゲーション学科生活福祉専攻]

学生の授業についての意欲を高め理解を深めるため、少人数の指導や個別指導（特に実習・演習科目）に力を入れている。5～10名ごとに担任の教育職員をおき、一人ひとりの相談にきめ細かに対応することとしている。特に、1年次冬学期の学外実習後は、個々の学生のニーズに即した指導を実施している。(平成22年4月、生活科学科生活福祉専攻から名称変更)

【自己評価】

各科とも、学生の学修意欲の維持向上を図る工夫がなされている。

【改善向上策】

専門教育科目においては適正な学生数で授業を行っているが、選択幅の広い共通教育科目は受講生数の正確な予測ができないこともある。従って適正な受講生数になるよう時間割編成で受講生数が各科・専攻により履修可能な時間帯に分散させている。

2-3. 教育改善への努力について

2-3-① 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

【現状説明】

ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会が前年度に引き続き、授業改善のための学生アンケート実施・運用を行なっている。

平成21年度に実施した学生アンケートの質問内容は、平成20年度の結果と比較できるようにするため、次のとおり平成20年度と同じである。

資料：学生アンケート票

A あなたの授業態度について

(1) あなたはこの授業にどれくらい欠席しましたか。

5 0回	4 1~2回	3 3~4回	2 5~6回	1 7回以上
------	--------	--------	--------	--------

選択肢 5=そう思う 4=少しそう思う 3=どちらともいえない 2=あまりそう思わない 1=そう思わない

あなたは（以後(2)～(8)の質問の主語)	5	4	3	2	1
(2) この授業を意欲的に受けていると思いますか。					
(3) 授業中、私語をするなどして他の学生に迷惑をかけていないと思いますか。					
(4) 授業中、メール打ちや居眠りなどをせず、勉学に集中していると思いますか。					
(5) この授業の授業概要（シラバス）をよく読んだ上で受講していますか。					
(6) この授業の到達目標を理解し、その目標達成のために努力していると思いますか。					
(7) (先生からの任意質問項目)					
(8) (先生からの任意質問項目)					

B 授業への感想

選択肢 5=そう思う 4=少しそう思う 3=どちらともいえない 2=あまりそう思わない 1=そう思わない

	5	4	3	2	1
(1) 授業概要（シラバス）の記載内容は受講する上で役に立っていますか。					
(2) 先生の話し方は、明瞭で聞き取りやすいですか。					
(3) 先生は学生の質問に、丁寧に回答してくれていますか。					
(4) 先生は学生に、授業への積極的な取り組み、参加を促していますか。					
(5) 総合的に判断して、この授業を受講して良かったと思いますか。					
(6) 内容がよく理解できるように授業の方法が工夫されていますか。					
(7) 先生は教室内の静粛な環境の維持に適切に対応していますか。					
(8) 授業の開始時刻は守られていますか。					
(9) (先生からの任意質問項目)					
(10) (先生からの任意質問項目)					

C この授業の改善につながるとされる意見や感想を書いてください。（無記名）

【自己評価】

実施にあたっては、共通となる項目内容の改訂および各授業に特有の追加項目の利用、各教育職員による実施する科目の選択、平成21年12月の実施、リファレンスシートの活用という4つの改善により、学生が回答する際に新鮮さを保つことができるように配慮した。また、学生アンケートの集計結果は授業担当者に通知され、改善点などを記入したリファレンスシートの提出を求めた。授業内容の充実や方法の改善に活用されている。

【改善向上策】

学生アンケートの集計結果および質問内容も考慮しつつ、授業評価の実施等を通して、さらに全学的な教育力の向上に取り組んでいる。

2-3-② 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

【現状説明】

平成18年度から平成21年度までに実施した授業に関するアンケートを「学生アンケート」と称し、全体集計結果を分析し、年度末にはデータの一部公表を行った。短期大学部教授会ならびに年2回開催される併設大学との合同研修会からFD活動に関する情報を得て、各科専攻においても取り組みを検討している。授業改善や教育内容の向上を目的とし、行っている。保育科では「保育実践演習Ⅰ・Ⅱ」の授業により、生活科学科では授業以外の時間を利用して実施された。この結果、全科の教育職員が学生の抱える課題を共通認識し、授業改善や教育内容の検討が促進された。さらに、年度末に提出されるリファレンスシートの活用により全学的に授業改善が進められている。

【自己評価】

短期大学部全体の授業改善への取り組みは平成18年度より実施している授業に関する学生アンケートの結果に基づき、個々の教育職員が学生のためにより良い授業をしようと努力をしていることが伺える。また全学的な組織としては「学生アンケート委員会」を「FD委員会」に発展させ、FD委員会は全教育職員に対しFD活動の促進を理解するための会議を平成20年度は7回、平成21年度は6回開催した。

【改善向上策】

今後、短期大学部全体としての授業改善の活発な取り組みの実施、および授業改善等の系統立てたFD委員会の活動が必要である。学生アンケートの結果に基づいて提出されたりリファレンスシートの内容を検討し、いかに教育職員により授業改善が進められているのかをさらにFD委員会を中心に協議を進めている。

2-3-③ 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

【現状説明】

[保育科]

本科所属の専任教育職員間においては科会議を週1回定例化し、学生の学修状況、動態、指導上の諸問題、各種実習と学内における学修指導との連携を始め、シラバスの調整や時々の全学的方針に関する打ち合わせ等、意思の疎通、協力・調整は十分行われている。

本科以外の教育職員との意思の疎通は問題に応じケース・バイ・ケースで行っている。

[生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻]

平成22年4月、生活科学科生活科学専攻より名称変更に伴い、これまで以上に多様な学生状況の把握と、学生指導、授業内容に関する情報交換をしながら教育職員の協力体制

を固めるために、週1回専攻会議を開催している。また、兼任教育職員をも含めたメーリングリストを作成し、専任教育職員と情報共有ができるようにし、本専攻の教育に協力と理解を得るための情報交換に役立てることとした。(※平成22年4月、生活科学科生活科学専攻から名称変更)

[生活科学科生活科学専攻]

本専攻は、衣・食・住・ビジネス(情報を含む)という専門性の異なる4分野構成であるため、各毎週専攻(メーリングリストによるバーチャル会議を含む)会議を開催して教育職員間の意思の疎通を図り、教育方針や学生支援に対する共通理解と各担当授業等について協力体制の強化に努めている。兼任教育職員とも密に連絡をとり、情報交換を行うことにより連携を深めている。(※平成22年4月、生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻へ名称変更)

[生活ナビゲーション学科生活福祉専攻]

本専攻所属教育職員のミーティングは平均月2回以上開催し、常に学生の状況や各科目の授業内容に関する情報交換を実施し、協力体制の確立、意思の疎通を図っている。実習担当の兼任教育職員に関しては、指導内容に齟齬がないよう、当該科目に関するミーティングに可能な範囲で参加を依頼している。その他の兼任教育職員に対しては、科長が学生の学修状況(意欲や態度等)を定期的に何うとともに、全国卒業共通試験の問題内容や試験結果等を報告し、当該科目の内容の充実をお願いしている。また、厚生労働省からの養成内容に関する連絡等も行っている。(※平成22年4月、生活科学科生活福祉専攻から名称変更)

【自己評価】

各科・専攻所属の専任教育職員同士の意思の疎通・協力体制は十分に行われていると評価できる。また、一部の科では非常勤講師間でのミーティング・検討会が定期的に行われており適切に稼働している。

【改善向上策】

定例的に科および専攻内でのミーティング・検討会を実施し、学生の学習意欲・成績・就職状況等に結実するよう、一層のコミュニケーション、ミーティング等により、認識を持てるように改善することによって、教育指針を確固なものとして、指導に活かすよう努めている。

2-*. 特記事項について

2-* -① この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

【現状説明】

併設大学との単位互換を行っており、短期大学部の学生が併設大学において開講される授業科目を履修することができる。

他大学との単位互換については、まず大阪私立短期大学協会の主催する単位互換事業「大阪カレッジネットワーク」に参加している。また併設大学が大阪府下国公私立45大学より構成される「大学コンソーシアム大阪」に加盟しており、その中の「単位互換事業」にも参加している。実際の利用者はなかったものの、本学短期大学部学生の利用も可能なため、今後も多様な学修を学生に提供できる。

また、情報技術の急速な進展に伴い、多様なニーズに応じた教育を実施する必要性から、情報教育では、「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」さらにステップアップを望む学生に向けて「情報処理演習応用」をグレード設定せずに開講している。

【自己評価】

単位互換制度により、専門分野と関連づけて研究を深めることや、専門以外の異なる分野を学び知識を広げることが可能としている。

情報・メディア科目について、短期大学部に相応しい技能を身につけることができる。

【改善向上策】

併設大学との単位互換制度については、編入学等を踏まえると現状が望ましい。

他大学との単位互換は、2年間で短期大学士としての学修を完成させねばならない短期大学部生としては、利用し難い面がある。但し、学修の選択肢として提示し続けることは必要であり、「大阪カレッジネットワーク」「大学コンソーシアム大阪」単位互換制度のオリエンテーションやポスター掲示での周知を継続している。

情報教育ではコンピュータ技術の格差の改善策として、グレードを設定せずに科目を開講し、個人の能力に合わせて履修できるよう配慮している。

2-* -② 特別の事由や事情があり、この《Ⅱ教育の内容》の評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

- ◆添付資料「学生便覧等、学習等について学生に配布している印刷物」【2-1添付】
- ◆添付資料「シラバスあるいは講義要項」【2-2添付】
- ◆参考資料「選択科目の履修について記載している印刷物」【2-1参考】
- ◆参考資料「学生による授業評価票」【2-2参考】
- ◆参考資料「FD活動の組織（FD委員会等）についての規程」【2-3参考】